

まちのキラリびと



一緒に豊かで美しい敦賀の海を守りましょう！

敦賀海上保安部
部長 小阪 元成 さん



マスコットキャラクター「うみまる・うーみん」▶

▼巡視船「つるが」



海の「もしも」は118番



▲海上保安部HP

海上保安庁のモットーは「正義仁愛」です。

海上保安庁は昭和23年5月に発足以来、海上における犯罪の取り締まりを始め、海難救助、災害対応、船舶の航行安全など幅広い活動に日夜従事しています。

敦賀海上保安部は、福井海上保安署（坂井市）および小浜海上保安署（小浜市）と共に福井県の沖合を管轄区域としています。管内には原子力関連施設が集中していることからテロ警戒も重要業務であり、体制強化のため令和2年度に大型巡視船「つるが」と「えちぜん」が配備され沿岸から沖合まで様々な業務を実施しています。最近では、京都府立海洋高等学校実習船「みずなぎ」の曳航救助や、過去5年で最多となる密漁事犯の監視取り締まりに努めました。

コロナ禍を契機としてマリinjレジャーが盛んになり、水難事故が増加傾向にあります。マリinjレジャーで痛ましい事故を起こさないために海で自分自身の命を守るための3つの基本として「ライフジャケットの常時着用」「防水パケットに入れた携帯電話など連絡手段の確保」「海の緊急通報（海のもしもは118番）」について周知・啓発活動を実施しています。昨年9月に敦賀市と包括連携協定を締結しました。この協定により、災害時の迅速な対応や情報共有だけでなく、教育や観光などの様々な課題に対してタイアップし、より地域に根差した活動に取り組んでいきます。

まちの宝を発見！

つるが歴史遺産



墳墓を保護するため
大きくなりすぎた樹木を
伐採しました

案内人 学芸員 藤田 裕介

▼「五塚の図」（山本元『武田耕雲斎等墓に関する調査』所収）



基本情報

種別：国指定史跡 所在地：松島町2丁目



武田耕雲斎等墓

五塚が墳墓へ敦賀が示す弔いのかたち

武田耕雲斎等墓は、耕雲斎をはじめとした天狗党約350人が埋葬された墳墓です。天狗党は、幕末維新期に尊王攘夷の志を掲げて筑波山で挙兵した一派で、対立する幕府や水戸藩の保守派と戦いを繰り返しました。その後、劣勢に立たされた天狗党は挙兵の志を朝廷に告げるため京都を目指して西上しますが、敦賀の地で降伏することとなります。

天狗党は、元治2年（1865）2月4日から23日にかけて5度に分けて処刑され、その後、穴に投げ捨てられたことから、5つの塚を形成し、「五塚」と呼ばれるようになりました。しかし、このような冷酷な扱いを哀れんだ永盛寺や本勝寺といった諸宗の寺院約15ヶ寺は、宗派を超えて大規模な法要を執り行っています。また、慶応2年（1866）頃には敦賀の寺院2ヶ寺が「五塚」を一つの墳墓に整え、法要を続けている様子が敦賀を訪れていた薩摩藩士汾陽次郎右衛門の日記に残されています。

明治に入ると、祐光寺や加賀前田家、越前松平家、水戸徳川家などが墳墓を修築するための費用を出し、墓石15基と木柵を伴う墳墓に修築し、さらに大正3年（1914）には、福井県会議員で敦賀出身の片山政治郎を中心として、現在の石玉垣を備えた墳墓に改修されました。このように失意のなかで処刑された天狗党に対して、敦賀の人々が墳墓の修築と祈り向き合ってきた歴史が、現在も史跡というかたちで残っています。

広報担当者の
つがやき

広報担当になり、はやいもので10か月が経ち、慣れない広報作成ソフトも少しずつですが扱えるようになりました。この広報紙が皆さんのお手元に届く頃には新年を迎えています。初心を忘れることなく、わかりやすい情報発信に務めていきたいと思っています。(T)

新年明けましておめでとうございます。皆さんは年末年始をどのようにお過ごしになりましたか。1年前の編集後記には、アルバムに夢になってしまい大掃除ができなかったと後悔が書かれていたので、今年こそ集中して隅々まできれいにしようと思います。(M)